

医学部進学
特別対談

「知・技・心」を備えた医療人の育成を

首都圏唯一の中高一貫全寮制(高校は通学も可)で、医学部・歯学部への高い合格率を誇る

学校法人秀明学園(秀明中学校・高等学校、埼玉県川越市)。医療人を志している医学部受験生のための

いま、どのような教育が求められているのか。尾上純一同校長と

医系専門予備校として全国一の合格実績を重ねている「メディカルラボ」本部教務統括 可児良友氏に語っていただいた



▲尾上純一校長と可児良友氏

医系専門予備校メティカルテボ

1991年から大手予備校で受験生を指導。

かかわり、現在は本部教務統括を務める。医学部受験に関する著書を多数執筆、医学部受験をテーマに数多くの講演を行っている。

1991年から力手予備校で受験生を指導。2006年、「メディアカルラボ」開校に責任者として

可児 御校は首都圈唯一の高中貫、寮制の学校で、近年、非常に高い進学実績を重ねておられます。どのような教育目標を掲げているのでしょうか。また、寮制の狙いについてもお聞かせいただけますか。

◆ 学習指導の特徴は

可児 また、チェックテストを実施しておられますね。単元ごとにきちんと習熟できているかどうかをテストで測り、基礎をしっかりと固めるための学習指導ですね。

尾上 各教科で單元ごとに区切りが終わつたところで、学

習内容の確認テストを行っています。基礎的な知識についての理解を確認するためです。単に知識を定着させ、記憶力、暗記力を高めるだけでは、今の大學生試験に対応できません。

建学の精神は「常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする」です。校訓に「知・技・心」を掲げ、知識・技能とともに豊かな心と強い精神力を育むことを重視しています。寮生活を通して自立心を養い、人間関係能力を高め、調和のとれた人間形成を図っているのです。

可児 医学部を目指すにはもちろん学力は大事です。しかし、医学部では学力以上にコミュニケーション力や協調性などの人間力も大切です。寮生活の中で人間関係を構築し、コミュニケーション力がどれるようになれば、医師として必要な能力が身につくようになりますね。

尾上 医学部の中に全寮制の大学があるように、医療人の資質・能力として、チーム医療や患者さんと良好な関係を築くコミュニケーション力が非常に重要です。医学部の先生

尾上 医学部の中に全寮制の大学があるように、医療人の資質・能力として、チーム医療や患者さんと良好な関係を築くコミュニケーション力が非常に重要です。医学部の先生方もそれを認識されていていますし、本校の寮生活でもそうした人間形成を図ることができると思います。特に中学の全寮制を経験した内部進学生は非常にコミュニケーション力が豊かです。高校から入学してきた生徒も一緒に学び合える環境が整っています。

さるには、算術であれば、学習時間もしっかりと確保できますね。それも、高い進学実績につながっているのでしょうか。メディカルラボでも、高生は朝九時から夜十時まで校舎内で勉強しています。当校では、一人ひとりの学力や苦手科目・分野などを考慮した個別カリキュラムに沿って、講師による1対1授業を行っています。授業後には、生徒一人ひとりに合わせた予習・復習課題が講師より出されるた

尾上 医学部を目指す生徒の多くは難関国公立大学進学コースや医学部進学コースに在籍しています。難関国公立大学進学コースは、国公立大の医学部や私立大でも上位の医学部を目指す生徒たちで、学年の中での最優秀者がいるコースです。医学部進学コースには私立大の医学部を目指す生徒が多く在籍しています。

尾上 学習面で何も言わなくても、自分ですべてできる生徒はいます。しかし、医学部進学を目指してモチベーションを維持するためには、教員が目をかけ、手をかけ、声をかけ

尾上 はい。「共通テストチャレンジ」と銘打って早期から過去問題や対策問題の演習に取り組ませています。また、小

も行っています。高校3年生になると、各自の勉強が重要なことがありますので、個別のサポートが必要になります。

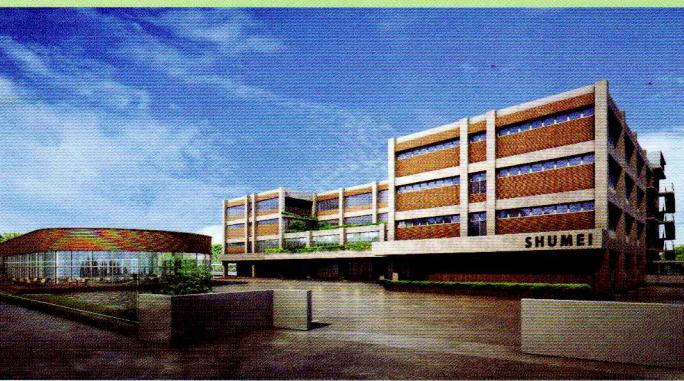
可児 生徒が先生に質問したいときにすぐに質問できるのは学力を伸ばすうえでモチベーションが高まりますね。

尾上 医学部進学コースの場合、特に夏・冬の講習で志望大学の入試問題演習に取り組むなどの対策をしています。また、医学部受験では国語力も重要です。大学入学共通テストで高得点を取めるには国語力が大きく影響しますので、対策講座を実施しています。さらに、学校推薦型選抜や総合型選抜を受験する高校3年生のために、全教員が分担して面接練習や小論文の添削を行うのも伝統です。面接練習の最後の仕上げでは、校長である私や教頭が面接官役になつて対応するなど、親身に指導しています。

◆医学部進学のモチベーション向上のために

可児 私たちは、生徒たちのモチベーションを上げるために医療現場で活躍されている方に講演をいたく機会を設けておりますが、御校での取り組みはいかがですか。

尾上 中学校の医進・特進コースでは、医師として活躍している卒業生を招いて話をしてもう取り組みをしてきました。群馬県でドクターへりに乗っている卒業生に、その現状を話してもらつた企画は大好評でした。高校でも、生徒が医療に触れる機会をたくさん用意しています。埼玉県職員を招いて「埼玉県における地域保健医療計画」について講演してもらつたり、埼玉県総合医局機構「高校生の志」養成事業を紹介し、積極的に参加す



秀明中学校・秀明高等学校新校舎

るよう促したりしてきました。また、製薬企業のアストラゼネカの御協力で毎年、「新薬開発に関するリモート講義」を多くの生徒が受講しています。「喘息のくすり」「がんのくすり」などの製薬や最新医療について学びました。今年は

「高血圧のくすり」がテーマになっています。さらに、埼玉医科大学と協議し、高大連携講座を開講してもらいました。9月に生徒26名が参加しています。リウマチとの治療に関する講義を受け、聴診やエコー、一時救命措置・心肺蘇生の実習もさせてもらいました。また、本校の生徒が毎年、埼玉医科大学に進学しているので、その卒業生とも話し合う機会を設けてもらいました。医学部に進学した卒業生から直接話を聞き、対話をすることで、生徒たちのモチベーションが非常に高まりましたね。

可児 実際の医療現場に行き、先輩たちの励ましを受けると、生徒たちにやる気がでてきますね。私たちの予備校でも、現在医学部に通っている学生チユーターに毎日来てもらつて質問や悩みに答えてもらっています。先輩たちの声は生徒の心に響きやすいですね。

尾上 本校では埼玉医科大学、獨協医科大学、北里大学などで医学部の指定校枠を頂いています。これらの大学には毎年、生徒が進学していますから、卒業生に来てもらい、在校生にアドバイスを設けていて、それが非常に役立つているのです。埼玉医科大学では、以前は一般的な面接試験が行われていましたが、昨年度からM-MI形式の面接(短い質疑応答やプレゼンを複数回行う面接)に変わりました。これも受験生から情報を得ています。

可児 特に学校推薦型選抜は一般選抜と比べて情報が入りにくく、わかりにくいところがあります。先輩たちが具体的に自分の受験の話をしてくれたらわかりやすいですね。

尾上 先輩たちに受験したときの出題や面接の質問例をまとめた「受験報告書」も書いてもらっています。埼玉医科大学獨協医科大学北里大学に関しては、他大学に比べて過去の蓄積が豊富です。先輩たちが詳しく書いているので、自分ももっと詳しく書いてやろうと思うようになつています。「受験報告書」は、いわばテストの再現答案です。

可児 私たちも受験生に「受験レポート」を書いてもらつてあります。入試問題の再現を高い完成度でこなしている生徒は合格しています。これを元に入試問題の再現を通して受験対策ができるています。医学部進学者がたくさんいると、受

験生にとっては心強いですね。

尾上 本校の医学部進学実績が高いのは、指定校推薦を活用していることもあります。今年度は、北里大学は一般枠と地域枠の2枠をいただいています。埼玉医科大学は一般枠と地域枠が各4枠です。獨協医科大学は枠の指定はありません。このように出願大学と連携を深めることで、毎年複数の生徒を進学させることができます。今後は、東京女子医科大学や愛知医科大学などの学校推薦型選抜に収集し分析してきます。

可児 関西には大阪医科大学、関西医科大学、近畿大学、兵庫医科大学などがありますが、関西の大学を目指す生徒もおられますか。

尾上 はい、関西の大学を受験する生徒は毎年いて、進学者もいます。医学部は大学ごとに出題傾向に特色がありますので、過去問題に取り組ませ、出題傾向や自分の適性から判断して受けるようにアドバイスしています。教員も毎年、医学部受験の指導をしていますので、大学入試問題の特徴や出題傾向をつかんでいます。

◆医学部を目指す生徒・保護者へのメッセージ

尾上 本校は、「保護者の信頼と期待に応える教育を行う」ことを教育方針とし、生徒が志望する進路目標を実現できるよう指導しています。生徒一人ひとりに「目をかけ、声をかけ、手をかけて」をモットーとして教育活動を行っていますので、どうぞ安心してお子様をお預けください。

当校の中等入試は、小学校段階の基礎基本を着実に習得できることを重視しています。難問を出題し、成績優秀者を集めて進学実績を高めている学校もありますが、本校は、入学してから学力を伸ばすよう学習指導しているのです。

過去に、大学入学共通テストで十分な得点が取れず、志望する国公立大の医学部受験を断念し、国立大学の他学部を受験することにした生徒がいました。しかしその後、出願直前に学校に電話をかけてきて、「先生、やつぱり第一志望の国公立医学部を受けてみたい」と相談してきたのです。私は、「君がそう思うなら受けなさい」と答えて、励ました。その生徒は「たとえ不合格でも、後悔したくない」と語つ

ていましたが、受験の結果、旧帝国大学医学部に合格したのです。第一志望を受験したい、という強い想いがなければ、願いは叶いません。教員は、「より安全な大学、学部」を薦めるのではなく、「志望校合格に向けて頑張ろう」と励ますことが大切だと思います。

祖父母や父母が医師という家庭に生まれ、医師にならなければならぬというプレッシャーを感じている生徒が少なからずいます。子どもを医師にしたいという保護者の願いに応えることは大切ですが、より重要なのは、生徒自身が「自分は医師になるのだ」という気持ちを高めることであり、自ら受験勉強に向かうようにすることです。本校は、医療系の進路を目指す生徒が多く、互いに切磋琢磨し合える環境にあり、医療に触れる機会も多く設けています。私たち教員は、医学部進学を目指す生徒たちに対して学習指導だけでなく、メンタル面でもサポートしていくことをかけています。

可児 本日は、貴重なお話を聞くことができ、ありがとうございました。

◎学校法人秀明学園(秀明中学校・秀明高等学校)

埼玉県川越市笠幡4792番地
中学校はスーパーイングリッシュ、医進・特進、総合進学の3コースで、現在の生徒数は184人。
高校は難関国公立大学進学、医学部進学、総合進学の3コースを設け、現在の生徒数は210人。
2021~2023年度の医学部合格実績(保健学科を除く)は国公立大学4人、私立大学102人。

◎医系専門予備校 メディカルラボ

北海道から九州まで全国26校舎ネットワークを展開している医系専門予備校。
完全個別の「授業・カリキュラム」「受験戦略」「担任制度」などの合格メソッドで入試2023年度入試医学部医学科合格実績1183人(医系専門予備校合格者数N=12人)*
*株式会社東京商工リサーチ調べ。

『**医学部受験**を決めたらまず読む本』
無料プレゼント

詳細は次のページへ

